

お忙しくても、約 2 分間で読めます

山内公認会計士事務所

ハートフル・ワード (心からの言葉)

TEL 098-868-6895
FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

大手企業が研修に来る知る人ぞ知る町工場 浜野 慶一 (浜野製作所社長)

1. 東京都墨田区。約 3100 の町工場がひしめく下町に、企業や行政の視察が絶えない企業がある。創業 34 年、金属プレス加工を手がける浜野製作所。年商 5 億円。社員 30 人の規模ながら、昨年末にはホンダが役員研修で訪れるなど、知る人ぞ知る町工場である。1 日約 200 種類もの金属を加工し、通常なら 3 週間かかるものを 2 週間で納品するなど、多品種・短納期が売りだ。技術力にも定評がある浜野の顧客名簿には、大手企業の名前がずらりと並ぶ。
2. 浜野慶一社長は 20 年前、29 歳で創業者の父の跡を継いだ。当時の売上高は 3000 万円で、新規顧客の開拓に奔走したが、門前払いされる日々が続いた。営業を続けるうちに、「顧客を増やすには、安くするか、難しいものを加工するか、納期を短縮するしかない」と気づく。浜野社長は「安くするのだけは嫌だった。だが、難しい加工は社員から“できない”と言われた。残された道は短納期への挑戦しかなかった」と振り返る。だが、根性をよりどころにしたやり方はすぐに限界を迎える。「会社を土俵から作り直すしかない」と着手したのが、確実に納期を守るための生産管理システムと人材の育成だった。
3. 取引先が増え始めた頃、「たとえ教育に時間を要しても未経験者を中心に採用すると決めた」。即戦力の経験者よりも、浜野の目指す方向性に賛同する人材が必要だった。高い技能を持つ若手も育ち、東京都から「未来の名工」に選ばれた者もいる。
(参考:「日経ビジネス」2012 年 5 月 5 日号)

経営者のための理念・哲学

日本の美質を後世に渡していく

1. 日本の国は、中国の唐に比べても優れた点が二つある。中国は古代から何度も王朝が入れ替わっているが、日本は万世一系を守っている。また、素晴らしい大和言葉が満ちあふれている。これは誇るべきことだ。日本は日本たらしめているもの^{おんたく}の思沢によって、日本人は独特の精神的価値観を醸成した。それは明治期に活躍した事業家たちの信条に端的に現われている。
2. 森村財閥 (現在の TOTO、日本ガイシ、日本特殊陶業、ノリタケの母体) を創設した森村市左衛門の人生信条。「天に神あり 地に心あり 人生誠を以て貫く」。一代で安田財閥を成した安田善次郎の生涯の銘。「儉約、克己。一にもってこれを貫く」。我が国が二千年以上の歴史を営々と受け継ぎ、今日の発展に到達し得たのは、この国民の美質による。この美質を後世に渡していくことこそ、我々の使命である。
(参考:「致知」2012 年 6 月号)

経営者のための経済学

貿易赤字が教えるもの

野口悠紀雄 (早稲田大学ファイナンス総合研究所顧問)

1. 円高が問題だという。しかし、輸入額が輸出額を超えてしまった今、円安になれば円建ての貿易赤字はさらに拡大する。もし円安になれば、発電用燃料として必要な LNG の円建て輸入額は増え、発電コストは上昇してしまうのだ。円高は円建ての輸入額を抑えることによって、震災からの復興に重要な寄与をしているのである。
2. 貿易収支が赤字ということは、燃料や原材料を輸入して加工貿易型の生産活動を行っても、それを補うだけの輸出ができなくなったことを意味する。つまり、日本では、加工貿易は経済の重荷になってしまったのである。加工貿易型経済活動を続けるだけ、日本の対外資産は減ってゆくことになる。新興国の製造業と低コストの体力勝負を続ければ、いずれ出血多量で死ぬ。そうなる前に、今すぐそうした事業から手を引く必要がある。
(参考:「週刊ダイヤモンド」2012 年 3 月 3 日号)

古典に学ぶ

来訪者がいかに多くても、時間が許す限り会おう

「老年となく青年となく、勉強の心を失ってしまえば、その人の到底進歩発達するものではない。いかに多数でも時間の許す限り、たいていは面会することにしてはいる」

(解説) 若くても年をとっていても、学ぶ心を失っては、人の進歩は止まる。これを防ぐため、訪れてくる人がいくら多くても、時間のある限り、なるべく会うようにしている。

(参考: 渋澤健「渋沢栄一」100 の訓言): 日経ビジネス人文庫